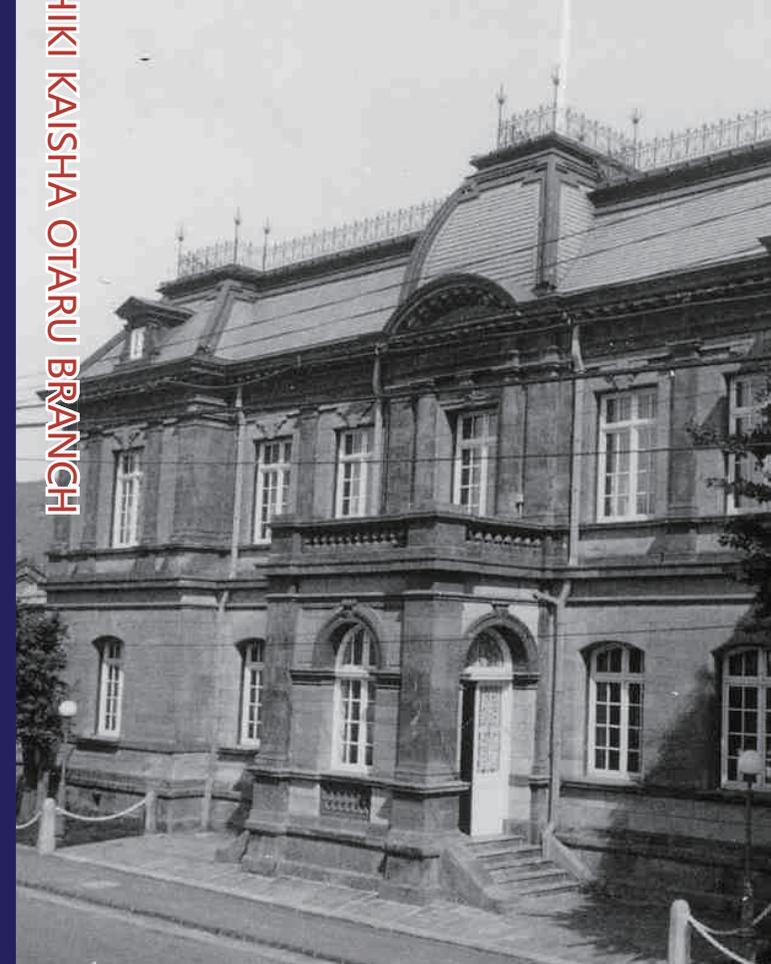


国指定重要文化財

# 旧日本郵船 株式会社 小樽支店



Former NIPPON YUSEN KABUSHIKI KAISHA OTARU BRANCH



- 開館時間 午前9時30分～午後5時
- 休館日 火曜日(祝日の場合は開館、翌平日に振替休)  
年末年始(12月29日～1月3日)  
※上記以外に臨時休館する場合があります。
- 入館料 中学生以下無料

	一般	高校生 市内在住の70歳以上の方
普通入館料	300円	150円
共通入館料	600円	300円
定期入館料	1200円	600円

※共通・定期入館料は総合博物館本館及び運河館と共通  
※普通入館料について、団体利用(20名以上)の場合は2割引

- 交通  
JR小樽駅下車 徒歩約20分  
小樽駅前バス停より 中央バス②③系統、「錦町」バス停下車徒歩5分



背景: 貴賓室壁紙 金唐革紙

「近世ヨーロッパ復興様式」、石造2階建の明治  
39(1906)年に建てられた事務所建築。  
昭和44(1969)年に国指定重要文化財に指定。

正面玄関を入ると眼前に広がる営業室は、飴色に輝く木製の柱や梁、柱頭飾りがみどころです。  
ここでは、欧州航路を含む貨物や旅客の取り扱い業務が行われました。

貴賓室及び会議室の竣工当初から残る金唐革紙(壁紙)や、各室の漆喰彫刻が施された天井中心飾りからは明治の技術力が感じられます。

## 建築概要

竣工: 明治39(1906)年

設計: 佐立七次郎

本館: 建築面積 485m<sup>2</sup>

石造2階建・スレート形ガルバリウム鋼板葺

附属舎: 建築面積 221m<sup>2</sup>

## 関連施設

**小樽市総合博物館 本館** (本建物より徒歩10分)  
〒047-0041 小樽市手宮1丁目3番6号 TEL 0134-33-2523  
重要文化財「旧手宮鉄道施設」を含む北海道の鉄道のあゆみ、科学の面白さを紹介。

**小樽市総合博物館 運河館** (本建物より徒歩12分)  
〒047-0031 小樽市色内2丁目1番20号 TEL 0134-22-1258  
小樽の歴史、自然について約2000点の資料を展示。

**小樽市手宮洞窟保存館** (本建物より徒歩12分、夏期のみ)  
〒047-0041 小樽市手宮1丁目3番4号 TEL 0134-24-1092  
約1600年前の人々が刻んだ壁面彫刻が描かれている。国指定史跡。

国指定重要文化財

## 旧日本郵船株式会社 小樽支店

Former Nippon Yusen Kabushiki Kaisha Otaru Branch

〒047-0031 小樽市色内3丁目7番8号 TEL 0134-22-3316

指定管理者 株式会社日比谷花壇



## 本建物の魅力



### ■金唐革紙

金唐革紙はかつて日本が世界に輸出した、金属箔を貼った和紙を版木に打ち込み立体的な文様を浮き出させた紙です。

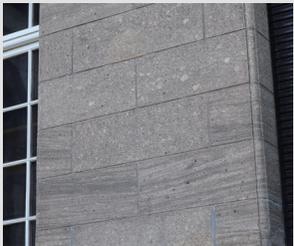
明治期の竣工当初の壁紙が現在にも一部残されています。



### ■天井中心飾り

貴賓室や会議室、大階段など各室のシャンデリアを囲うように、天井に漆喰彫刻が施されています。

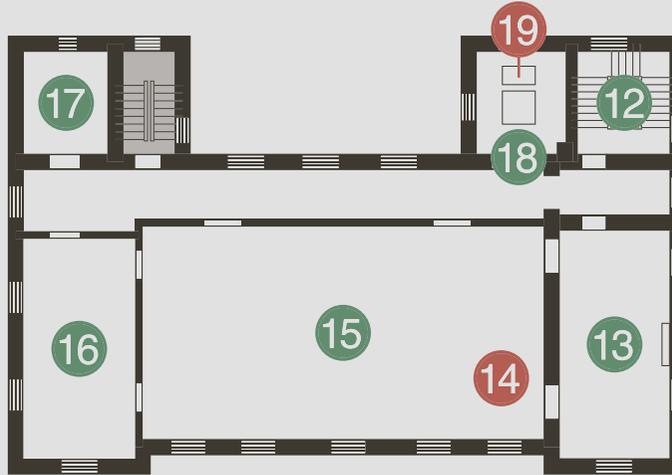
この天井中心飾りは各室で大きさや豪華さが異なり6種類あります。



### ■小樽軟石

石造の本建物は、小樽軟石と登別産中硬石を用いて建てられています。かつて、小樽軟石は市内で産出し、多くの倉庫で用いられていました。縞模様や玉模様が特徴です。

## 館内案内



## 2F

### ⑫大階段

### ⑬貴賓室

金唐革紙と空色漆喰天井、そして合わせ鏡の豪華な部屋

### ⑭金唐革紙 展示

金唐革紙(復元)に触れて鑑賞できるコーナー

### ⑮会議室

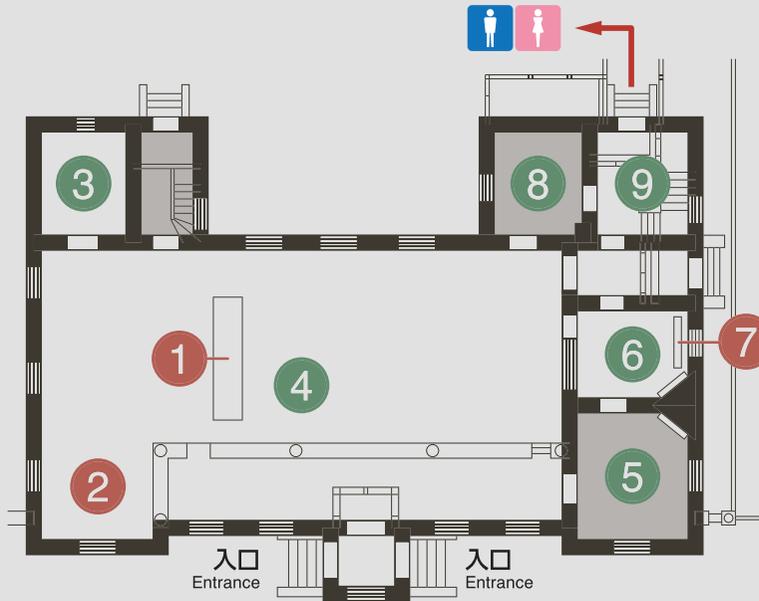
竣工当時は舟入間が一望できた160㎡を超える会議室

### ⑯食堂

### ⑰書籍室

### ⑱第二応接室

### ⑲小樽軟石 展示



## 1F

### ①白山丸模型

### ②受付

### ③金庫室

防火を考慮した分厚い扉と波型鉄板を用いた天井板に注目

### ④営業室

コリント式の柱頭飾りが施された威厳のある執務空間

### ⑤第一応接室

### ⑥支店長室

### ⑦2階紹介映像

### ⑧店室

### ⑨大階段

木製支柱飾りや天井中心飾りを施した吹き抜けの大空間

## 設計者:佐立七次郎(1856-1922)



東京大学工学部の前身、工部大学校造家学科第一期生として、英国建築家ジョサイア・コンドルの下で建築を学びました。

同期生は辰野金吾(日本銀行旧小樽支店設計監修)、曾禰達蔵(旧三井銀行小樽支店設計)や片山東熊(赤坂離宮設計)です。

當舖局や通信省等を経て、設計事務所経営のかたわら、明治30年頃から日本郵船株式会社の建築顧問を勤めました。



営業室



貴賓室



食堂